

平成23年度科学・技術関係予算についての意見募集結果
(24148：理科教育等設備整備等補助金)

| ご意見の概要 | 件数 |
|------------------|----|
| このまま推進すべき | 1件 |
| 改善・見直しをした上で推進すべき | 2件 |
| 推進すべきではない | 0件 |
| その他 | 0件 |
| 合計 | 3件 |

【主なご意見】

全国の小中高等学校の理科室で必要な実験観察備品は科学技術創造立国の日本において絶対必要なものであり、日本の科学技術をこれから支える理科好きの子供たちを育て、育成する為にさらに拡充すべきである。また金額が少なすぎる、最低この100倍くらいの予算付けが必要である。また補助金の交付税化も絶対反対である。なぜならこのような予算は交付税に入ると消滅してしまいます。(道路整備やその他に化けてしまう)教育は国が責任を持ち、推進すべき。

新学習指導要領実施を目前にして次年度小・中・高校に対する理科教育設備整備補助金が9億9000万円は非常に少なく残念です。全国の学校数約4000校で割ると1校当たり25000円にも満たない金額です。これでは1年間の理科授業や実験を満足に行える状況ではないと危惧します。教師実験やDVDを見るだけではなく生徒一人ひとりが実験に参加し「科学・理科の楽しさと考え、まとめる力」を養うためにも理科教育等設備整備等補助金の増額をしていただき、各学校における理科機器整備を早急をお願い致します。

平成21年度、新学習指導要綱に対して移行期間からの準備とし大型予算が実施され、一通り整備されたかのように思いがちです。しかし、学校現場、地域によってばらつきがあり、教育を受ける側で、公平さを保っていないように思います。その上、平成22年度、平成23年度と激減からさらに10%カットの予算では、整備が進んで行かず不公平さを埋めていくことがさらに遅れていくように思います。整備状況の確認、現場からの要求状況を踏まえ、予算要求額を増額見直して判定していただきたく思います。